

第7回 ハイパー決断力



ハイパードライブ 代表取締役社長

浅田剛治 Takeharu Asada

株式会社ノバレーゼ創業者。挙式・披露宴の企画・運営を行う総合ブライダルビジネスを展開。同業他社とは一線を画す「モダン」で「スタイリッシュ」な結婚式場を中心に、ウエディングドレスショップやレストランを全国で運営。また、歴史的建造物や経営難に陥ったホテル、料亭、レストラン、結婚式場等を再生させる再生ビジネスにも注力するなど、経営責任者として主に店舗開発と、人材の採用・育成の面でその手腕をふるう。2007年には、「Japan Venture Awards (JVA2007)」(主催:「創業・ベンチャー国民フォーラム」/経済産業省中小企業庁委託事業)において起業家部門「中小企業庁長官表彰」を受賞。

過去実績だけを頼っても革新は生まれない
常に第三者の視点持てれば大きく外さない

「受動喫煙」の概念なかった時代、会場内を完全禁煙

私が物事を決断する時の基準は、①お客様・スタッフ・パートナーが幸せになれるか、②楽しいかどうか、の大きく2点です。この2つを押さえれば、思い切った決断をする時でも大きく間違えることはないと思っています。

私がノバレーゼの社長だった2005年、まだ受動喫煙という言葉の認知度も低かった時代に、会場の分煙を決断しました。喫煙スペースはバーカウンターなど披露宴会場の外、会場内は完全禁煙とし、決めた日の週末から即、スタートすることにしました。この決断以降、出店した会場には喫煙所を設けています。

ゲストテーブルに灰皿が置かれているのは当たり前という時代だったため、思い切った決断と映ったのではないかと思います。社内会議に諮っても、「今成約いただいているお客様にキャンセルされてしまう」「タバコを吸

ハイパードライブ 代表取締役社長

浅田剛治 Takeharu Asada

株式会社ノバレーゼ創業者。挙式・披露宴の企画・運営を行う総合ブライダルビジネスを展開。同業他社とは一線を画す「モダン」で「スタイリッシュ」な結婚式場を中心に、ウエディングドレスショップやレストランを全国で運営。また、歴史的建造物や経営難に陥ったホテル、料亭、レストラン、結婚式場等を再生させる再生ビジネスにも注力するなど、経営責任者として主に店舗開発と、人材の採用・育成の面でその手腕をふるう。2007年には、「Japan Venture Awards (JVA2007)」(主催:「創業・ベンチャー国民フォーラム」/経済産業省中小企業庁委託事業)において起業家部門「中小企業庁長官表彰」を受賞。

ゲストにゆっくり結婚式を楽しんでもらえない」など、猛反対に合いました。

でも、この決断はお客様にとって正しい、タバコの煙が充満している状態よりも会場の端から端まできれいに見渡せる方が良く決まっている、これは正義だと思えたので、反対を押し切って断行しました。

きっかけは、あるレストランのトイレの前に貼ってあったポスター。「受動喫煙防止」という当時は耳慣れないキャッチフレーズが打ち出され、そのレストランが、なぜ分煙しているのかを説明する内容でした。

守るべきはタバコを吸う権利より妊婦・子供・高齢者

これを見て、頭に浮かんだのは次のようなことです。

レストランは喫煙・禁煙をお客様の側で選べるが、結婚式のゲストには不可能。同じテーブルのゲストに「吸っていいですか?」と尋ねられて「嫌で

す」と言える人は少ない。タバコを吸う権利があるのは認めるが、妊婦や子供、年配者など様々なゲストが集まる結婚式場は、誰を守るべきなのかと自問自答しました。

そこで、喫煙所を設けて、会場内は禁煙にすることにしました。喫煙可 or 禁煙の選択を新郎新婦に委ねる選択肢もあったかもしれませんが、新郎新婦が禁煙を選んだ場合、愛煙家のゲストは新郎新婦を悪く思うかもしれない、それは申し訳ないので、企業として責任を持って会場内禁煙を宣言すべきと思いました。

社内会議で挙がったように、すでに成約いただいているお客様からすれば、約束と違うためキャンセルされても仕方がない、それについては謝罪しかありません。実際にキャンセルも3組程度ありました。でも「いいですね!」と称賛してくださるお客様も多く、得ものの方が多いと確信できました。

また、タバコを吸うゲストに対しても無理難題を押し付けているとは思いませんでした。どんな愛煙家もハワイまでのフライト8時間は我慢できているはずで、披露宴の2時間半、吸わずにいられないはずはないと感じました。会場の外には喫煙スペースもあるので、全く吸えないわけでもありません。

自分がゲストとして招待されたいかどうか

新しいものを生み出すには、想像

力が不可欠です。固定概念や過去の実績だけを判断基準にしている、イノベーションは起こせません。

ザ ロイヤルダイナスティ大宮の運営に乗り出した時も、社内で猛反対に合いましたが断行しました。大きな反対要因は、当時、大宮が流出エリアと言われていたことです。でも、多くの利用者で賑わう大宮駅から程近く、大通りに面した間口の広い建物は必ず人目を引く、建物の骨格は変えられないが、デザイン次第でお客様の支持を集めることができるとイメージすることができました。

金沢のアマンダンヴィラを出店した時も、「市街地から20分も離れた場所にニーズがあるのか?」といった声が上がりましたが、今まで式場がなかったからニーズもなかっただけと考えました。郊外ならではの美しい景色に加え、プライベートの打ち上げ花火を上げることもできる、そういう経験は都心では絶対にできない、自分がゲストとして招待されたら絶対に嬉しいと感じ、唯一無二のロケーションと思えました。

目の前の1つ1つを着実に決断することが大事の成就に

私はこれまでの経験から、「決断」について以下のことが言えるのではないかと考えています。

周りから「非常識」と思われるような決断ほど、大成功することは多い

“非常識”の裏返しは新しいこと、今までになかったことであり、お客様に受け入れられれば、爆発的にヒットする。

決断とは何かを捨てること

“決断”は決めて断つと書く。今までのやり方や選ばなかったものは捨てるということ。「こう」と決めたとに関わらず、特例を作ったりすると先祖返りしてしまい、決断した意味がなくなる。

決断を誤らないための2大基準

1 お客様・スタッフ・パートナーが幸せになれるか

■ 様々なゲストが集まる結婚式場で守るべきは愛煙家よりも妊婦・子供・高齢者

■ 社員が有給休暇100%取得できればプライベートが充実してお客様にもクオリティの高い提案ができる

2 楽しいかどうか

■ 会場はタバコの煙で充満するよりも端から端までクリアに見える方が美しい

■ 都心では絶対にできない体験ができるなら、駅から遠くても絶対に招待されたい

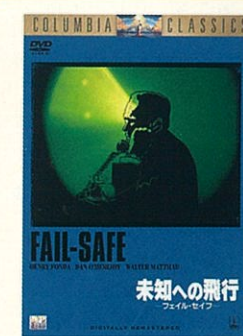
様々な立場に立って物事を考えることで、常識に捉われない、思い切った決断も確信を持って踏み切れる

責任を持って決める人が必要

民主主義で皆の意見を聞いていると、何も決まらない。議論を戦わせるのは必要なプロセスだが、リーダーは責任を持って決めるべき。

私は新卒社員向けのスピーチで「目の前のことを1つずつ着実に、間違えずに決断していく、その積み重ねが、いつか大事の成就につながる」と伝えています。

決断を間違えないために、お勤めの習慣は、常に第三者の立場に立って物事を考えること。自分の言動が、同僚や上司、お客様、家族に対してどう映ったのか、果たして正しかったかどうか、常に考える癖をつけると、自ずと想像力が養われ、お客様・スタッフ・パートナー、三方良しの決断ができるようになると思います。

映画好きな浅田氏
おススメの今号の1本

「未知への飛行」

1964年 アメリカ 112分

米ソの核戦争がテーマ。米軍で「モスクワを核攻撃せよ」と指令が出されるが、実はコンピューターの誤作動によるミス。少しずつ対応が遅れてしまったせいで、取り返しのつかない事態に。そこで米大統領は全面核戦争を回避するために驚くべき決断を下す。舞台は米軍の作戦室で、戦争の描写はほとんどなく、爆撃機の動きなどもレーダーで描かれています。緊迫した状況の中で下されるトップの決断力が圧倒されます!